

松平東照宮：産湯の井戸

松平東照宮の境内に現存する最古の建造物の一つと考えられているのが「産湯の井戸」だ。松平家の言い伝えでは、少なくとも 15 世紀頃から、この井戸の水を使って生まれたばかりの赤ちゃんを初めて洗ったという。これは、本家が松平郷を離れて南や西に領土を広げてからも受け継がれてきた。松平郷の南西 13 キロにある岡崎城で、後に将軍となる徳川家康こと松平竹千代（1543-1616）が生まれたとき、この井戸から竹筒に入った水が馬に乗った使用人によって運ばれたという伝説が残っている。

現在は使われていないが、年に 2 回、この「産湯の井戸」から水が汲まれる。徳川家康の生涯を祝う「松平郷権現祭」の前夜には、松平東照宮の神主が井戸を開き、その水を祀られた神々に捧げる。また、松平郷のもう一つの大きな行事である「天下祭」の神事に使われる木の玉を清めるのに「産湯の井戸」の水が使われている。

井戸の近くには 2 つの小さな神社がある。大きい方は、松平家と武士の守護神である八幡神を祀っている。その裏には、ここでの崇拝の原点と思われる巨大な岩がある。遠い昔、このような自然を神の宿る場所として崇めたことがあり、建物に神を祀るという考え方は後になってから広まったものである。小さい方の祠には弁財天が祀られており、弁財天は知識、美、芸術の神であり、水にも関係している。